

田口勇先生ならびに鈴木啓三先生 惜別の辞

平成17年、田口勇先生は9月29日に、鈴木啓三先生は12月8日に、それぞれ古希を迎えられました。まことに大慶ではありますが、そのことは同年度の終わりをもって、専修大学を定年によりご退任になることを意味し、後輩教員としては大変寂しく思う次第です。

日本の大学全体が少子化や社会の変革期にあって、専修大学でも難局を迎えているこの時期に、高い識見と本学において永年貴重なご経験とご功績を積まれた両先生が教職を去られることを真に残念に思います。ここに両先生のご略歴と本学や社会へのご貢献を紹介しながら、心からの感謝と惜別の意を表したいと思えます。

経営学部教授田口勇先生は、昭和10年9月29日にお生まれになりました。昭和29年に茨城県立水戸第一高等学校をご卒業、翌30年4月東京大学に入学され、昭和34年同大学理学部化学科をご卒業になりました。

昭和34年4月八幡製鉄株式会社（当時）に入社され、技術研究部門ご所属となり、その後同社の課長および次長の要職を務められました。仕事の傍ら研究論文をまとめられ、昭和44年12月に東京大学より工学博士の学位を授与されております。

昭和61年9月に当時の新日本製鐵株式会社を退職され、10月に国立歴史民俗博物館情報資料研究部教授に就任され、平成元年10月には東北大学金属材料研究所教授を併任され、研究・教育に従事されました。この間名古屋大学、千葉大学および東京都立大学においても非常勤講師として教鞭をとられました。

専修大学では平成7年4月に経営学部教授としてご就任になり、以来11年にわたり教育・研究および学内運営に多大なる功績を残されました。

学部教育では現代技術論、環境論、自然科学論、科学史、企業研修やゼミナールなどをご担当になり、二部でも産業技術論を講じられました。一方大学院では、科学技術論特論、科学技術論特殊研究を担当され、それぞれ学生の指導にあたられました。本学以前における先生のご経験とお人柄が、学生の尊敬と親しみを集めるところとなり、講義やゼミナールは数多の学生が参加する人気番組となり、活気にあふれておりました。

学内運営としての田口先生のご功績は、平成13年度から2期4年にわたりご担当になりました自己点検・評価委員会委員と自己点検・評価運営委員会委員としてのご活動に顕著なものがあります。この間に作成されました経営学部の自己点検・評価に関する資料や専修大学として公にされた刊行物は、これまで大学や学部改革の指針になっていました。これからも戦略・戦術立案のバイブルとして長く活用されるべき文書資料であり、その影響力は計り知れません。

私ごとで恐縮ではありますが、ともに企業出身の教員であることから、田口先生には公私とも大変懇意にさせていただき、ご指導を受けました。とくに学部長職にあった4年間は、ことあるごとに相談に乗っていただき、課題を解決できて、感謝申し上げます。

経営学部教授鈴木啓三先生は、昭和10年12月8日にお生まれになりました。昭和30年3月に北海道立稚内高等学校をご卒業になり、専修大学商経学部経済学科を昭和34年4月にご卒業になりました。同年5月から防衛庁事務官として4カ年余り勤務されたのち、昭和39年10月に職員として専修大学に入職されました。

昭和40年4月より、経営学部所属の実技講師として教員生活のスタートを切られ、昭和43年4月専任講師、昭和48年4月助教授を経て、昭和55年4月に教授に就任されました。ご入職以来現在まで42ヶ年の永きにわたり専修大学に貢献されました。

ご担当は体育や健康に関係する講義と実技であり、最近では健康科学論と体育演習を担当されました。

先生の学生に対する親身なご指導は定評のあるところで、学生寮での生活指導委員、体育合宿所監督、学級担任、学生部委員、体育部長などを歴任されております。専修大学は現在「学生を中心に据えた大学」を標榜しておりますが、その先鞭を付けられたのが鈴木先生であったとも考えられます。その他、教養課程委員会委員、図書館委員会委員、体育部長、生田新校舎建設検討委員会委員（昭和60年度）、社会体育研究所長などを歴任しておられます。

研究活動では、昭和51年度に短期在外研究員としてカナダモントリオールに派遣され、平成4年度国内研究員、平成12年度に短期在外研究員としてオーストラリアに派遣されております。

一方、鈴木啓三先生といえば体育会とりわけレスリングでの国内外におけるご自身および後進の指導に関する輝かしい業績を忘れることができません。

まずご自身の競技歴ですが、昭和31年から3カ年にわたって、それまでの精進が一気に開花して輝かしい成績を残しておられます。すなわち、昭和31年：関東新人レスリング選手権優勝、全日本学生選手権ウエルター級第3位、国民体育大会ウエルター級優勝、昭和32年：全日本選手権ウエルター級優勝、専修大学はそのお陰で団体第2位、昭和33年：世界選手権大会 ウエルター級第5位、全日本選手権第3位。この3年で一気に世界に「鈴木啓三」の名を馳せられたものと思われまます。

一方後進への指導と貢献については、国民体育大会において第39回大会（昭和58年）から十度近く競技役員として活躍されております。目を海外に転じますと、特別選手強化コーチなどを担当され、オリンピック競技におけるわが国レスリング選手の成績向上にも大いなる貢献をされました。また、全日本学生レスリング連盟の理事長をお務めになったご経験もあります。こうしたことを通じて、カレッジスポーツにおける専修大学の声価の高揚に大きな足跡を残されました。

鈴木啓三教授のご功績に些かでも報いるために、経営学部教授会は平成17年11月22日、満場一致で先生を専修大学名誉教授に推薦いたしました。

以上に田口勇先生ならびに鈴木啓三先生のご活動の一端をご紹介いたしましたとおり、ご専門の分野は言うに及ばず、幅広い知識とご経験および全人格をもって学生の指導にあたられ、学内運営や社会貢献に果たされましたご功績は真に顕著であります。ここに、両先生からご指導を賜った後輩教員が最近の研究成果を募り、「専修経営学論集第82号」を「田口 勇教授ならびに鈴木 啓三教授退職記念号」として編纂して、両先生に献呈し、経営学部教員一同、満腔の謝意と深甚なる惜別の意を表する次第であります。

両先生がご退任後もご健康に留意され、ご活躍になることを祈念申し上げますとともに、専修大学と経営学部に対する更なるご指導とご支援を切にお願い申し上げます、お別れのことばとさせていただきます。

2006年3月

専修大学経営学部長 魚 田 勝 臣